

# 1. 外部評価結果報告概要表

作成日 平成19年 8月8日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2970100281
法人名	社会福祉法人 晃宝会
事業所名	グループホーム あじさい園
所在地	奈良市茗荷町805番地1 (電 話) 0742-81-1393
評価機関名	特定非営利活動法人 なら高齢者・障害者権利擁護ネットワーク
所在地	奈良市内侍原町8番地 ソメカワビル202号
訪問調査日	2007年7月3日

## 【情報提供票より】(H19年 6月 18日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 9 月 18 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 14 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 6.8 人	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋陸屋根平屋 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	17,000 円
敷 金	有( 円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 500000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1月当たり 46500 円 + おやつ代2000/月		

### (4) 利用者の概要( 月 日現在)

利用者人数	17 名	男性 1 名	女性 16 名
要介護1	5 名	要介護2	1 名
要介護3	9 名	要介護4	1 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 84 歳	最低 66 歳	最高 92 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	塩田医院・井村歯科医院
---------	-------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>ホームは、奈良市東部の茶畑が広がる自然豊かな山間にあるが、車では市街地から15分ほどで来れる。特別養護老人ホームやケアハウスと同じ敷地にある。平屋の完全バリアフリー構造になっており、居間兼食堂も居室も広くゆったりとした構造になっている。</p> <p>ホームの理念は、一人ひとりの生活リズムを大切に、地域と連携してその人らしくゆったりと生活できることを目標としている。職員と利用者が共に四季を楽しみながらゆったり生活できるホームである。</p>
---

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の調査で、水分摂取量の記録が見にくいという指摘があり、職員で話し合っ、摂取量を棒グラフで表し一目でわかるように改善した。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は職員がまず話し合いをし、管理者と職員で意見交換をして決める。自己評価の過程で、気づいたこともケアに活かしている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、今まで2回開かれ、ホームからは現状や課題を報告し、地域からは地域が抱える問題などが話し合われた。会議を通して、より地域との連携の大切さが確認された。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>重要項目説明書にホーム内外の苦情受付窓口が記載されている。また、面会時や電話連絡時に気軽に意見を言ってもらえるように配慮している。ホーム入り口に、「意見箱」が設置されている。家族会があるが、まだ家族の意見を取りまとめる段階には至っていない。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>施設として、自治会に加入し、地域の運動会や、伝統行事に参加している。職員は、清掃活動にも参加している。また、小学校や保育園とも交流があり、利用者も楽しみにしている。</p>

## 2. 外部評価結果報告書

(   部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人やホームの運営理念に、地域との連携を大切にすること謳っており、パンフレットに明記されている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日9時からの朝礼で、グループホームの理念を暗唱している。また、運営会議や全体会議でもホームの理念を具体的に話をしている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	施設として、自治会に加入し、地域の運動会や、伝統行事に参加している。職員は、清掃活動にも参加している。また、小学校や保育園とも交流がある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員がまず話し合いをし、管理者と職員で意見交換をして決める。また、評価結果を職員に下ろし、改善に向けて取り組みをしている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、今まで2回開かれ、入居者家族、民生児童委員、包括支援センター、施設園長、ケアマネなどが参加、ホームのことだけでなく、地域が抱える問題なども話し合っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の議事録の提出や、事故報告書の提出のとき、情報交換をして意見を求めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「ふるさと通信」を月一回発行し、ホームの活動を報告している。健康状態の変化は、その都度報告し、相談している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要項目説明書にホーム内外の苦情受付窓口が記載されている。また、面会時や電話連絡時に気軽に意見を言ってもらえるように配慮している。ホーム入り口に、「意見箱」が設置されているが、あまり利用されていない。	○	できれば匿名で、家族からの率直な意見を聞けるシステムの工夫があればさらによい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	関連施設を保有するものの、利用者との馴染みの関係を崩さないよう配慮されている。職員の定着率もよい。職員の配置や異動は、「ふるさと通信」にも紹介される。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修が積極的に生まれ、その費用も施設で負担されている。研修参加後は、書類の提出や会議での報告もなされている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国グループホーム協会の研修に参加したり、知り合いのグループホームと情報交換をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居にあたって、本人の生活習慣や好みを家族から聞き、スムーズに馴染めるよう配慮している。先にデイやショートとして利用してもらって、徐々に慣れてもらうこともある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理の好きな人には食事の準備や味付け、畑仕事をやっていた人には、野菜の作り方などを教えてもらう。また、三味線やピアノのできる人に、演奏をしてもらうこともある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居にあたって、本人の生活習慣や好み、やりたいことなどを詳しく本人や家族から聞いている。日々の生活の中でも、本人の希望を聞ける機会を多くつくるよう努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の基本は、東京センター方式が取り入れられている。作成にあたっては、職員でよく話し合い、本人や家族の思いを聞き、それを充分活かせるよう努力している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは、毎月モニタリングの会議が行われ、変化があれば随時に、定期的には半年に一度見直されている。見直しにあたっては、本人や家族の意見や了解を得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームのほかに特養やケアハウスもあるので、その間の移動も可能である。知り合いに会うため、遊びに行くこともある。また、大きな行事は合同でしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に一回ホームのかかりつけ医の診察がある。病院への通院は、家族が行けないときは職員が付き添っている。緊急のときの医療機関も確保されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族の思いに沿って、医療機関とも連携し、ターミナルケアも実施している。ただ、書類による説明や契約はない。	○	できれば、契約書や運営規定にターミナルケアの取り決めや方針などを盛り込むことが望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「個人情報に対する基本方針」の取り決めがあり、プライバシーの確保と共に、全職員に徹底できるように具体的な研修を重ねている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかなスケジュールはあるが、日々の活動は、利用者のライフスタイルやペース、その日の体調や希望などを考慮し、ゆったりとした生活が送れるよう配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の能力に応じて、盛り付けや配膳、片付けなど、職員と共に行っている。料理そのものがとても美味しく、入居者の楽しみになっている。必ず職員一人は一緒に同じ食事をとり、他の職人は食事介助をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現在昼間の時間帯ではあるが、本人の希望に添って入浴している。希望があれば、毎日でも入れる環境づくりをしている。	○	夜間入浴も検討中とのことであるが、ぜひ実現してほしい。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の好きなことや能力を活かして、食事の準備や片付け、清掃、花壇や畑の手入れなどを行っている。また、買い物や外食に行ったり、三味線やピアノ演奏をしてもらうこともある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望にそって、日常的に散歩やドライブ、買い物などに出かけている。季節ごとにピクニックに出かけたり、地域の運動会やお祭りなどの行事にも参加している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昼間は、入り口やベランダ、窓などに鍵はかかっておらず、自由に出入りすることができる。徘徊をする人もいるが、職員で話し合い、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	平屋で玄関から完全なバリアフリーになっており、廊下も広く、災害に強い構造になっている。スプリンクラーも設置や常備食の保管もなされている。また、年2回避難訓練や地域の消防団との合同訓練も実施されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が実際に食事現場に足を運び利用者の様子を見て、バランスよい食事を提供している。食事量や水分摂取量の記録が、一目でわかるようによく工夫されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間兼食堂は、広くゆったりとしている。テーブル席だけでなく、テレビが見られるソファや家具で目隠しされた小さなソファもある。東側全面が、ガラス戸で遠くを見通せ、四季の風景を楽しむことができる。廊下も広く、便所や浴室も中央付近にあって使いやすい。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は広く、備え付けのクローゼットがあり、畳かフローリングを選ぶことができる。ベッドやテレビ、冷蔵庫、使い慣れた家具なども持ち込め、居心地よく暮らせる工夫がなされている。		